



『カリフォルニアの日系移民と灌漑フロンティア』

矢ヶ崎 典隆 著

学文社 刊 (TEL03-3715-1501)

定価 5,830円 (本体5,300円+税)

日系移民の歴史において、米国はブラジルと並ぶ成功例とされる。本書では、米国西部カリフォルニア州で形成され、定着した日系農業移民社会の実像を、地形、環境、人文・社会現象などに焦点を当てることで概観している。

カリフォルニアは米国灌漑技術開発の先進地域だ。灌漑事業が進展して農業用水が広域に行き渡ると大農場が分割され、牧畜と小麦の大規模生産から果樹栽培や酪農にシフトする。日本からの入植者たちは、きめの細かい農業管理で果樹栽培を成功させ、同地で日系社会を構築していく。本書は20世紀初頭から1920年代までの日本人移民の入植形態や土地の所有・借地状況、米国人との関係などを詳述している。筆者は自然発生的に日系社会が形成された場所と、計画と適応戦略を持った事業として入植地を広げ、地域社会を繁栄させ

た場所との比較もしており、そこから計画性と入植者の教育水準の高さが移民社会の持続性を左右するという事実が浮かび上がる。越境的社会とは、入植者がその地域と共に明確な計画と戦略を持ったときに初めて成功し得るのだと本書は示唆する。

総務省は日本の人口が2055年には9,000万人を割ると予測している。人口減少に関連付けて考えられるのが労働力確保のための外国人労働者の受け入れだが、四方を海に囲まれた孤島の日本は多民族の大規模移住を受け入れた経験を持たない。移民受け入れは失敗すると労働や国際問題を引き起こし、長きにわたる両国間の遺恨にもつながりかねない。共存共栄に向けて日本の地理的条件やホスト国としての可能性を探るべきだ。そのためには、本書の持つ地理学の視点を社会学、国際学、精神医学など多様な研究間との相互連携で活かすことが欠かせない。今後の日本社会を考えるための重要な一冊だ。

(日本農業新聞 さいとう はな 齋藤 花)